弟子屈町の学びの状況

～令和８年度　全国学力・学習等状況調査の結果について～

令和８年４月 23 日に全国調査が実施され、過日結果が公表されました。今回の調査では、国語、算数・数学、英語(中学校のみ)の３教科と学習の状況をとらえるための児童・生徒質問紙調査が実施されました。この調査で把握できる学力や学習状況は児童生徒の状況の一端ですが、学校教育活動の状況や児童生徒の学びの状況と傾向を捉えることで、今後の教育活動の改善を進めていきます。

【令和８年度　全国学力・学習状況調査の概要】

１　調査期日　令和８年４月 23 日　(中学校英語は、４月２０日～5月２９日の間に実施)

２　調査対象　小学校６年生 … ３２人　／　中学校３年生 … ３５人

３　調査内容　（１）教科に関する調査（国語、算数・数学、英語[中学]）

（２）質問紙調査（①児童生徒に対する調査・②学校に対する調査）

平均正答率の推移（本町・全国）

【小学校】

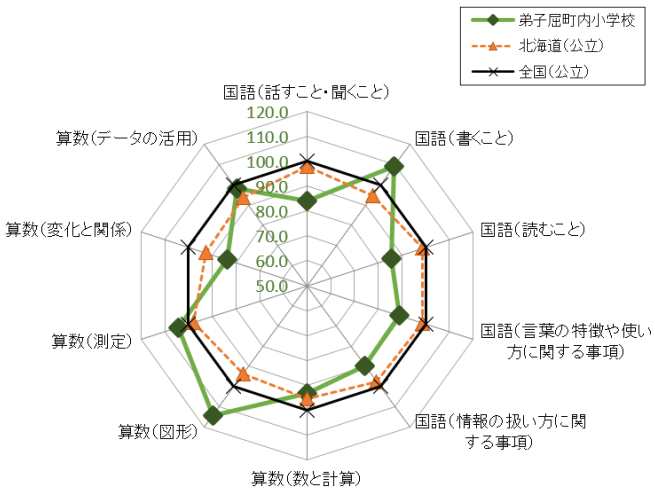
	R4		R5		R6		R7		R8	
	本町	全国	本町	全国	本町	全国	本町	全国	本町	全国
国語	65	65.6	73	67.2	60	67.7	58	66.8	55	60.9
算数	55	63.2	64	62.5	51	63.4	43	58.0	54	56.4
理科	55	63.3					56	57.1		

【中学校】

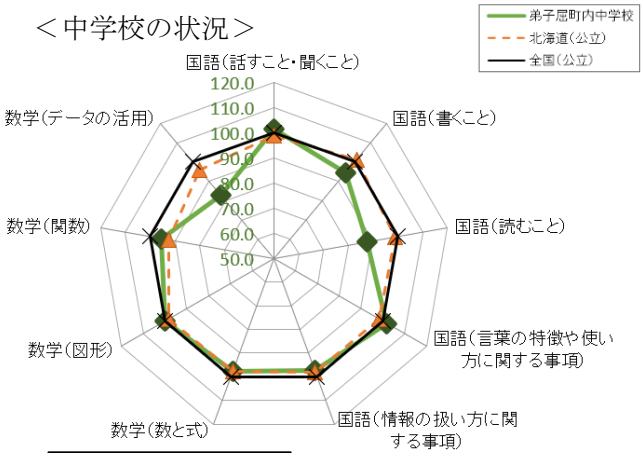
	R4		R5		R6		R7		R8	
	本町	全国	本町	全国	本町	全国	本町	全国	本町	全国
国語	64	69	67	69.8	53	58.1	52	54.3	62	63.9
数学	44	51.4	45	51	53	52.5	47	48.3	54	57
理科	47	49.3					503	503		
英語			42	45.6					479	499

≪教科全体の状況≫　※中学校英語は、平均 IRT スコア

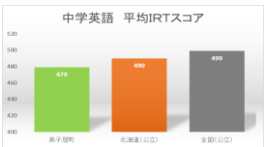
＜小学校の状況＞



＜中学校の状況＞



IRT とは、国際的な学力調査や英語資格・検定試験で採用されている テスト理論です。
500 を基準にした得点で表されています 。



国語は「書くこと」、算数は「図形」で全国を上回る。国語は全般的に、算数は「変化と関係」に課題。

○･･･正答率の高い領域
●･･･正答率の低い領域

○国語：「書くこと」
○算数：「図形」「測定」
●国語：「話すこと・聞くこと」「読むこと」「言葉」「情報」
●算数：「変化と関係」「数と計算」

・国語では、考えたことを自分の経験と結び付けて書く問題で正答率が全国平均を上回りました。一方で「話すこと・聞くこと」をはじめ全般的にやや課題が見られます。
・算数は、立方体の体積を求積する式を書く問題で全国を上回る正答率となりました。一方で、特に「分数」に課題が見られます。

国語と数学はほぼ全国と同程度。英語の「話すこと」に課題

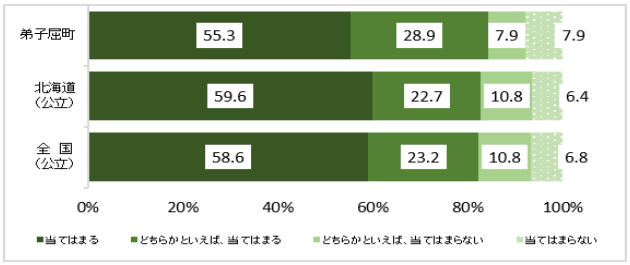
○･･･正答率の高い領域
●･･･正答率の低い領域

○国語：「話すこと・聞くこと」「言葉」
○英語：「読むこと・書くこと」
●国語：「読むこと」「書くこと」
●数学：「データの活用」
●英語：「話すこと」

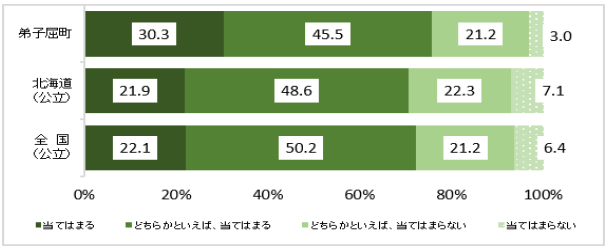
・国語では、ほぼ全ての領域において全道平均を上回り全国平均からはわずかに低い正答率となっています。
・数学もほぼ全ての領域で全国平均と同程度の正答率でした。一方で「累積度数」の意味理解に課題が見られます。
・英語では、「読むこと・書くこと」や「聞くこと」については全国とほぼ同程度の正答率でした。一方で「話すこと」について課題が見られます。

≪児童・生徒質問調査の状況≫

[小学校] 将来の夢や目標を持っていますか



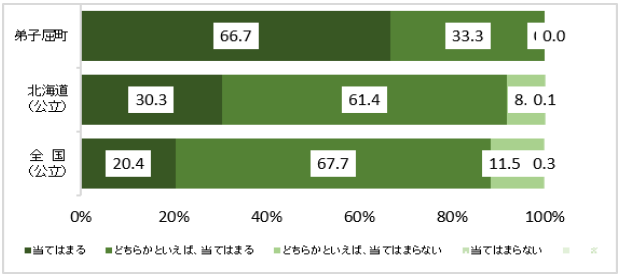
[中学校] 地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか

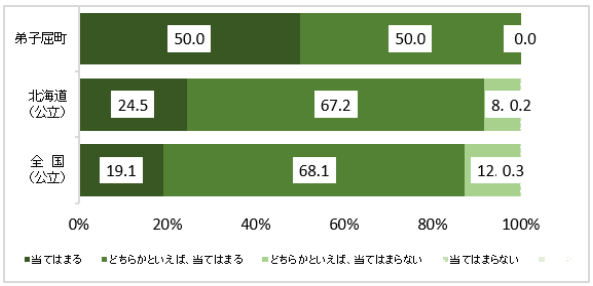


小学校では、「将来の夢や目標を持っていますか」の質問に対し、「当てはまる」・「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童が84.2%を超えています。また、中学校では「地域や社会のために何かしてみたいと思いますか」の質問で「当てはまる」と回答した生徒の割合が全道・全国平均よりも8ポイント以上も高い結果となっています。弟子屈町の子どもたちが、自分と地域や社会の未来を大切に思っていることがうかがえます。

≪学校質問調査の状況≫

[小学校・中学校] 調査対象学年の児童(生徒)は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか





学校質問調査からは小学校と中学校で共通して、「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができているか」の質問で、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の回答の割合が高くなっています。学校では、児童・生徒が主体的に学ぶ授業づくりに力を入れていることがわかります。また、別の質問からは授業や学校生活において、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組むことが重視されていることもうかがえます。

【今後の改善方策について】

(1) 学校では

○　「子どもが主語」の授業づくりを推進します

・「主体的・対話的で、深い学び」　・「個別最適な学びと協動的な学びの一体的な充実」
・「見方・考え方」を働かせた学び　・指導と評価の一体化　・ICT の利活用　など

(2) 家庭では

・「早寝、早起き、朝ご飯」や安定した生活リズムの確立と継続をお願いします
・家で学習したり読書したりする環境と習慣を整え、励ましや賞賛をお願いします。
・情報端末機器の使い方や使用時間など、メディアコントロールへのご協力をお願いします。

(3) 教育委員会では

・町内の学力・学習状況を分析し、成果や課題から改善策を提示します。
・児童生徒の確かな学力の育成を図るため、教師の指導力向上と授業改善の推進に努めます。
・学びのプロセスを大切にした「総合的な学習の時間・探究的な学習」の充実に努めます。
・各校の校内研修の充実のために必要な情報を提供するなど支援に努めます。

◎お問い合わせ　弟子屈町教育委員会指導室（０１５－４８２－２９４５）